

## 飯塚市の地区間輸送・地区内輸送における特徴等一覧表

事項別		運行・利用状況の主な特徴	
地区間輸送【コミュニティバス】 (※)宮若市との共同運行である宮若・飯塚線は除く。			
路 線 別	全体	①市町合併前の旧4町の区域から各地区拠点・主要施設等を経由して中心市街地までを結ぶ4路線で運行している。 ②中心市街地部分(イオン穂波店、市立病院を含む)は全路線が運行している。 ③民間路線バスとの路線の近接、重複により競合している部分がある。 ④地区拠点や主要施設での乗降は多いが、居住地域での乗降は多くない傾向にある。	
	コミュニティバス 穎田・飯塚線	①利用者が最も少なく、収支率が最も低い。 ②「穎田中央団地⇄イオン穂波店」の利用が多い。 ③民間路線バスとの重複率が高い。	
	コミュニティバス 庄内・飯塚線	①菰田地区のバス停の利用者数は少ない。 ②民間路線バスとの重複率が高い。	
	コミュニティバス 筑穂・飯塚線	①全路線の中で利用者が最も多い。収支率も最も高い。 ②「筑穂支所⇄イオン穂波店」の利用が多い。 ③高田・鎮西線と役割が重複している(筑穂地区⇄中心市街地)。	
	コミュニティバス 高田・鎮西線	①高田系統(大分駅発着)は利用が多いのに対し、二瀬・鎮西系統の便は利用が非常に少ない(午後の3便)。 ②筑穂・飯塚線と役割が重複している(筑穂地区⇄中心市街地)。	
地区内輸送【予約乗合タクシー及び買物ワゴン(地域運行型交通)】			
地 区 別	全体	予約乗合タクシー ①新型コロナウイルス感染拡大の影響が出る前までは、利用者が大きく増加傾向であった。 ②予約に応じて地区の全域を運行するため、分散する住民ニーズに対応できるとともに、交通空白地を解消する効果がある。 ③日常的な移動手段として頻繁に利用する人が各地区に存在している。	
	買物ワゴン	①まちづくり協議会が主体となって、各地区に適した輸送手法を検証するための試行として実施されている。 ②住民のニーズを運行内容に反映している(運行計画をまちづくり協議会が策定)。 ③決まった時刻・場所で利用(乗車)できる「定時定路線型運行」の安心感がある。	
	穎田地区	予約乗合タクシー(穎田・鯉田地区)	①穎田病院を目的地とした利用が特に多い(通院、西鉄バス乗継のいずれかは不明)。 ②他地区に比べて利用者が少ない。 ③利用者数の多い日と少ない日が分かれる傾向にあり、日々の分散した移動需要に応える形で活用されている。
		買物ワゴン	①水曜日に運行。6つの便で異なる運行ルートを設定している。 ②利用者数が多く、利用者1人あたり経費も低く抑えられている。
	鯉田地区	予約乗合タクシー(穎田・鯉田地区)	(穎田地区と一体的に「穎田・鯉田地区」として運行区域が設定されている。)
		買物ワゴン	①運行時間帯は概ね午前中の半日。事業開始が他地区より早く、利用状況は安定している。 ②利用者の満足率が高い。
	幸袋地区	予約乗合タクシー	①近年は利用者数が増加傾向にあり、認知度の向上とともに地区内の移動手段として、より活用されるようになってきているものと推測される。 ②路線ワゴンあり。
		買物ワゴン	①6つの便で異なる運行ルートを設定している。 ②利用者数が多く、利用者1人あたり経費も低く抑えられている。利用者の満足率も高い。
	二瀬地区	予約乗合タクシー	①利用者数が多く、地区の高い移動需要に応える交通機関として活用されている。 ②イオン穂波店を目的地とした利用が特に多い。
		買物ワゴン	(未運行)
	鎮西地区	予約乗合タクシー	①他の交通機関との乗継利用が比較的多い(蓮台寺バス停)。 ②路線ワゴンあり。 ③スクールバスの代替として、小中学生の下校手段に活用されている。
		買物ワゴン	(未運行)
	飯塚東地区	予約乗合タクシー	①利用者数は他地区に比べて少ないものの、令和2年度の利用者数(路線ワゴンを除く)は前年度を上回っており、必要性の高い外出に活用されているものと推測される。 ②「地区またぎ」の利用(飯塚東→庄内)が比較的多い(全体の約2割)。 ③路線ワゴンあり。
		買物ワゴン	①各便は基本的に同じルートを往復している(1日6便)。 ②利用者の満足率が全地区の中で最も高い。
	庄内地区	予約乗合タクシー	①高頻度利用者については、利用回数が全地区の利用者の中でも特に上位を占める傾向にある。 ②通勤で日常的に利用している人(現役世代)がいる。 →買物や通院以外の用途でも、繰り返し利用したい人の需要に応じて活用される傾向にある。
		買物ワゴン	①停留所は全便共通であるが、便によって停車順番が異なり、時間帯に応じた経路設定を工夫している。 ②各便の利用者数が同じくらいになっている(時間帯によるバラつきが少ない)。
	穂波地区	予約乗合タクシー	①利用者数が多い。車両は全地区の中で最も多く稼働しており、日によっては予約が飽和状態である。 →地区の高い移動需要に応える交通機関として活用されている。
		買物ワゴン	①高田校区から買物の目的施設まで運行している。 ②午前・午後に約3時間ずつ運行していたが、利用者の意向等に基づき令和2年度から運行計画を見直している。
	筑穂地区	予約乗合タクシー	①地区の利用者数及び高頻度利用者数は、全地区中、最も多い。 ②面積が大きく山間部も多い地区の全体をカバーする交通機関として活用されている。 ③他の交通機関との乗継利用が比較的多い(桂川駅、筑前大分駅)。
		買物ワゴン	①運行区域を3つに分けて、それぞれ異なる曜日(火曜日・水曜日・木曜日)に運行している。 ②運行実績や地域ニーズに基づく、次期コミュニティ交通に関する提案あり。